

マインドセット

2022・4・13 重枝 一郎

先日の入学式ありがとうございました。先生方のおかげで、あたたかい雰囲気ですぐに新入生を迎え入れることができました。

さて、まず始めに確認だが、ALは教師がアクティブではなく生徒一人一人が思考しているアクティブである（笑）。そこでの心配事は、生徒の主体性を尊重するあまり授業の雰囲気が収拾不能になることではないだろうか。そこで、大切になるのは「マインドセット」である。

例えば、学び合いを「マインドセット」する際、「学校で学ぶ意味は？」「授業以外でこの計算をすることがありましたか？」「体育で跳び箱を習って、道に跳び箱がありますか？」「何か不得意なことがあっても心配しなくていいのです」「学校はもっと大事なことを学ぶためにあるのです」「それは、いろいろな人と付き合い、その人たちの力を借りて、自分を知り、できるようになる能力を学ぶところなのです」「だからこの授業では絶対に一人も見捨てないようにすることが大切です」「一人を見捨てるクラスは二人目を見捨て、三人目を見捨てます。四人目はあなたかもしれません。第一そんなクラスは嫌だよ」このような語りをし、協働するマインドセットをする。

もちろんその一コマの目標をつくることもマインドセットである。「50分後になりたい自分」を授業開始前につくらせることが大切になる。この目標設定がないと、振り返りも形骸化する。振り返りの際、なりたい自分になれていないことが家庭学習につながるようにする。これらの語りの注意点をいくつか言う。

一つ目は、「社会に出てから必要なのは、人との付き合い方」「他者と協働できる力」ということを話の中に入れるということである。その実現のために「クラスはチームであり、一人も見捨てない」ことを大事にさせる。

二つ目は、その語りの教師の本気度を実感しない生徒がいるということである。語った後が大切であり、生徒はそれを見ているということです。

三つ目は、その語りの伝染力は、勉強ができる生徒が教師の本気度を実感すれば波及する。（これは、学級崩壊の原理と同じで、いわゆる若干名のいい子が、本気度が伝わらない教師を見限ると、いわゆる大半の普通の子が安心して反発、逸脱する、若干名のいわゆる悪い子が学級を崩壊させているわけではないということ）

四つ目は、やはり一回でマインドセットできたりはしないから、数回に分けて話しをするなどの実態に即した語りが大切になる。

最後に、「マインドセット」は、『自発能動型』の生徒を増やしていきたいという教師の願いである。能動的に取り組んでいるかどうかは、やはり活動をさせることからしか知ることはできない。発言することを萎縮するのではなく「チャンス」と捉える生徒を増やしていかなくてはならない。そして、自己肯定感・他者肯定感をもてる生徒（「大切なひとり」）、しなやかでやわらかい、失敗からの回復力をもてる（レジリエンス）生徒が学年歴を追うごとに増えていけばいいと思う。